

高松塚古墳及びキトラ古墳壁画の保存活用に関する本年度の検討事項

古墳壁画の保存活用に関する検討会（第29回）では、両古墳壁画の当面の課題について整理した（参考資料1）。それぞれの課題については、継続的に調査研究等に取り組んでいるところであるが、本年度の検討事項は以下のとおりである。

1. 高松塚古墳壁画保存管理公開活用施設（仮称）（新施設）設置について

令和4年3月に策定した新施設の基本構想を踏まえ、現在、新施設ワーキンググループにおいて以下について検討している。

古墳壁画・石室石材保存管理室の考え方

温湿度や光、文化財 IPM に配慮した保存環境、壁画等の見やすい観覧環境、メンテナンススペースの確保等、古墳壁画・石室石材保存管理室に必要な要件を抽出し、必要となる諸室・機能の考え方を検討している。

展示の考え方

「高松塚古墳・古墳壁画をより深く知る」、「古墳・古墳壁画への理解を深め、興味を高める」、「飛鳥地域への回遊を促進する」という観点から、「古墳壁画・石室石材保存管理室」、「常設・企画展示」、「ガイダンス展示」の役割と連携を検討するとともに、各展示に必要な観点等の考え方を検討している。

諸室の機能・面積の考え方

古墳壁画・石室石材保存管理室、展示の考え方をもとに、必要な諸室を抽出し、それぞれの機能と所要面積の考え方を検討している。

2. 高松塚古墳壁画について

壁画・石室石材の維持管理と壁画色材の調査

壁画・石室石材の保存のため、環境の管理に努めている。学術情報、保存の面から重要な材質の情報を得るため、壁画・石室石材の調査研究を進めており、今年度はX線回折分析装置で壁画の色材（顔料）の分析を実施している。

3. キトラ古墳壁画について

壁画の維持管理と別置壁画片の調査

壁画の保存のため、環境の管理に努めている。高松塚古墳壁画仮設修理施設にて保管している『辰』『巳』『申』について、今後のあり方の検討のため、まずは図像の調査を実施する。